

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4675700027
法人名	社会福祉法人 智光会
事業所名	グループホーム 愛の里
訪問調査日	平成 20 年 11 月 28 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 23 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4675700027
法人名	社会福祉法人 智光会
事業所名	グループホーム 愛の里
所在地	鹿児島県始良郡湧水町米永2371番地 (電話) 0995 - 74 - 1488

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年11月28日	評価確定日	平成21年1月23日

【情報提供票より】20年11月1日)事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7.8

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1階建ての、1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	2,000(光熱費)円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800 円		

(4) 利用者の概要(10月1日:現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.6 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	栗野病院 ・ 上原歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田畑が広がるのどかな農村地帯の一角に、同法人が運営する特別養護老人ホームに併設してグループホーム愛の里がある。ホームのリビングからは遠く霧島の山々を望むことができる自然豊かな所である。同法人が長い期間にわたって地域医療に貢献してきたところの運営理念を根本において、グループホームとしての年間目標をたて、利用者一人ひとりが自分のペースで、したいことが自信を持ってできるように、職員はさりげなくサポートしている。運営母体が病院であるために緊急時の対応についても安心できると共に、今年スプリンクラーを設置し安全な生活ができるように配慮しており、利用者と家族にとって安心できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の評価結果について、職員会議で報告され改善に向けた話し合いがなされている。運営推進会議については、昨年度よりは開催の回数も増えており、内容の充実に向けて取り組み中である。食事を楽しむことができる支援では、職員が弁当持参であったが利用者と同じ食事を摂るように、改善されている。鍵をかけないケアの実践では、利用者とのコミュニケーションを多く持つことで、利用者が自分の居室に鍵をかける回数も減ってきている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、介護主任が作成した評価票をもとに、ミーティングや職員会議などで職員と一項目づつ話し合い、意見を出し合いながら仕上げている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議には、利用者、家族代表、地区長、民生委員、役場職員、包括支援センター職員、管理者、職員が参加し、今までに3回開催されている。会議では、ホームの状況報告、外部評価の結果報告、事業計画の報告などを行い、参加者からの意見や要望などが話し合われている。参加者からは年6回の会議の開催は多いのでは、という意見が出ており、運営推進会議の意義について十分説明し、理解を得られるように働きかけを行なうと共に、地域との交流促進のための話し合いを行う場となることを期待します。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の面会時には日頃の様子を話したり、出来上がった写真を見せようなどしている。家族の意見や要望についても個別に対応し何でも話してもらえるような雰囲気作りを心がけている。意見や要望があった時には、個人記録と申し送りノートに記載し職員全員が共有し、話し合いが必要なことについてはミーティングで話し合い、運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域が学校行事を中心に活動していることも多く、学校に出かけ交流している。中学校の福祉体験学習を受け入れたり、敬老会やグランドゴルフなどにも参加している。併設する特別養護老人ホームのクラブ活動で、習字や茶道を習うなど、施設の方々とも交流している。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人として、地域の人々の健康と幸福を守るための運営理念を根本において、グループホームとしての年間目標を掲げ、利用者の支援にあたっている。		法人としての運営理念とは別に、地域密着型サービスの役割を理解し、グループホーム独自の理念を、職員と話し合っって作られることを希望します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内に運営理念と年間目標を掲げて、職員が理念と目標を確認できるようにしている。職員は今年掲げた目標である利用者の自信につながるような言葉かけを意識し、支援にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域は小学校行事を中心に活動しており、小学校校区運動会や敬老会、グランドゴルフなどに参加し交流をしている。また、併設する特別養護老人ホームのクラブ活動で、習字や茶道を習ったり、ホームの利用者とも交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の結果については、職員に報告し改善に向けた話し合いが行われている。自己評価については、介護主任が作成した自己評価票を参考にし、職員と一項目ずつ話し合っってまとめている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までに不定期に3回運営推進会議が行われている。事業所の状況報告や外部評価の結果についても報告し、改善についての意見を求めている。参加者からは、年6回の会議は多いのではないかと意見も上がっている。		運営推進会議の開催数を増やしていこうという意欲は見られるが、もう一度運営推進会議の意義について理解を深める努力と、会議の場所をグループホーム内で行い、地域の代表者に利用者のホームでの様子を見て頂くなど、助言を頂く材料を提供していかれることを希望します。

鹿児島県 グループホーム愛の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場福祉担当職員は併設する老人保健施設に時々来られるので、職員が行って相談したり、電話で相談したりしている。		地域密着型サービスを意識して市町村と積極的な連携をとるためにも、グループホームに来所してもらったり、ホームの行事に参加してもらったりなどして、事業所の運営や課題解決に向けた関係づくりをしていかれることを希望します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時には、利用者の日頃の様子や健康状態などを報告したり、行事の写真などを見てもらうようにしている。金銭については全員預かりをしており、家族には明細書と領収書で出金を確認してもらい、金銭出納帳にサインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は玄関に設置しているが、意見をもらえないので、直接職員が家族に意見や要望がないかどうかを伺うようにしている。意見があった場合や、電話で要望を確認した時は個人記録と申し送りノートに記載し、職員が共有できるようにし、話し合いが必要な場合には、ミーティングなどで話し合い運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間は職員の離職や異動もなく落ち着いている。急に人員を確保しなければいけない時は、法人内の施設の中から経験者を異動させるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連機関の病院や施設での研修に参加することが多く、外部研修については、希望者が参加したり、介護主任が内容を検討し参加職員を決定している。研修後は報告書を提出し、資料を回覧している。		事業所内での研修について職員と十分に話し合い、職員の意見を取り入れながら、事業所として研修の年間計画を立て、段階的、計画的に職員の育成が行われることを期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し交流している。湧水町内のグループホームの管理者同士は管理者研修などで交流があるが、職員の相互訪問の実現に至っていない。		地域の同業者との交流や職員が相互訪問をすることで、お互いの良さを知り、日頃のケアに活かしていくことで、サービスの質の向上につながるよう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	併設する施設のデイサービスを利用されていた人も多く、家族と本人に見学に来てもらい、雰囲気を感じてもらったり、病院からの人には、職員が出向いて馴染みの関係を作り、納得してからサービスの利用を開始するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	手芸を利用者と一緒にも多く、クリスマスリースやクッション、パッチワーク、編み物など、昔は興味がなかったものに興味を示しているため、職員はその出来上がりに感動の言葉かけをしている。また、昔していた野菜作りや漬物漬けを教えてもらい、感謝の言葉を伝えるなど、支えあう関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入所前には本人と家族からどのように暮らしたいかを確認しており、入所後も定期的に直接本人から暮らし方についての意向を把握している。また、日頃の生活の中で利用者の意向を確認した時は、すぐに対応できるように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	利用者には1年毎に職員の担当者が決まっており、「詳細の検討」用紙を作成、短期目標の評価も毎月行い、それをもとにケア検討会に参加している。介護計画は、かかりつけ医の意見、職員の意見、家族、本人の意向を反映させたものとなっている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	6ヶ月ごとの見直しを行っており、緊急の場合にはその都度、関係者と話し合っ介護計画の変更を行っている。		

鹿児島県 グループホーム愛の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望で病院への通院や送迎を行ったり、協力病院がかかりつけ医の場合には、往診して点滴を行うなどの支援の他に、自宅への一時帰宅や墓参りなどの支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの家族、本人が希望するかかりつけ医となっている。月1回の定期受診は、職員が介助し内容については家族に電話で報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り指針を作成し、事業所でできること、できないことについて家族に説明しているが、緊急の事態が生じた場合についてその方向性は、主治医を含め関係者と話し合いを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、排泄を促す声かけに利用者のプライバシーを傷つけないように、入浴時の担当職員が異性にならないように配慮している。個人情報の取り扱いについても事務室で保管し管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者はその日の曜日や天気などによって予定を立てており、習字、茶道クラブに参加したり、天気がよければ買い物や畑仕事など行ったりしている。特に予定のない利用者については、いくつか興味がありそうなことカラオケやパズル、パッチワークなどを準備し、選択してもらっている。		

鹿児島県 グループホーム愛の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と同じテーブルを囲み職員は、箸が進まない利用者にとりげなく声をかけ、話題作りをしながら楽しく食事をとってもらうように配慮している。利用者はそれぞれの力量に応じて、テーブルを拭いたり、箸を配ったり、食事後は助け合いながら後片づけを行っている。		利用者と職員と一緒に食事の準備が出来るよう、場面作りの工夫を望みます。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できるようになっているが、利用者の体調を考慮し一日おきに入るようにしている。順番については平等になるように配慮し、中には利用者同士、声かけあって一緒に入る方もいる。拒む利用者については、声かけの仕方を変えたり、職員を代えたり工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日頃の生活の中で、畑作をしたり、タオル交換、洗濯物干し、洗濯物たたみ、部屋の掃除など役割を持ち、ドライブ、外食、花見、地域の行事、梅干作りや菓子作りなどを楽しみ、施設で行う習字、茶道教室に参加したり、パッチワーク、編み物、など、気晴らしの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は利用者の希望を聞いて散歩に出かけている。小学校までが散歩コースになっていて、中に入って交流することもある。また、マラソンの応援に沿道に出たりと、いつでも出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムが設置してあるため、日中は鍵をかけていない。就寝時に居室に鍵をかけることで安心する利用者があるが、いつでも開けられるように合鍵を職員は持っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下に、併設する施設と合同で年2回、昼間と夜間想定で避難訓練を行っている。事業所には、今年スプリンクラーも設置され安心安全なホーム作りを行っている。		職員が自信を持って避難誘導できるように、地震・風水害などを想定した自主訓練を行っていくと共に、地域消防団との情報交換も更に進め、地域の協力を得られるように、働きかけを行なうことを期待します。

鹿児島県 グループホーム愛の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立やカロリーについては、併設する施設の栄養士によって管理されている。食事の摂取量については、把握し記録されているが、水分については医師より指示があった時のみ記録している。</p>		<p>職員が意識をしながら関わられるように、水分摂取についても把握することが大切です。それが病気の予防や早期発見につながることを期待します。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>建物は廊下が広く、回廊式になっている。廊下の所々にソファが置かれ、いつでも休憩できるようになっており、利用者が水をやり育てている鉢植えもきれいな花を咲かせている。廊下の壁には、利用者と一緒に作ったパッチワークの壁掛けやクリスマスリースが掛けられ季節感をだしている。中庭からやさしい光が入り、台所からは食器を洗う音やご飯を炊く匂いがしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室二部屋に対して一つのトイレとなっており、洗面台は居室に付いている。居室には花の名前がついていて、畳とフローリングに分かれている。畳みの部屋にベットを置いたり、テレビ、タンス、ソファ、時計、自分で作った作品を飾ったり、家族の写真やぬいぐるみ置いたりとその人らしい部屋で、居心地よく過ごせるようになっている。</p>		